

# 教員養成の改善について —「教職実践演習」のカリキュラム開発を通して—

拓殖大学 巽公一・村岡薫・保坂芳男

## 1 はじめに

中央教育審議会は「今後の教員養成・免許制度の在り方について（答申）」(2006)において、教職課程の質的水準の向上の方策として、「教職課程の履修を通じて、教員として最小限必要な資質能力の全体について、確実に身に付けさせるとともに、その資質能力の全体を明示的に確認するため、教職課程の中に、新たな必修科目『教職実践演習（仮称）』を設定する」ことを提起した。2007年に教育職員免許法施行規則が改正され、2010年度入学者より「教職実践演習」が必修となった。

本稿では、拓殖大学において開発した「教職実践演習」のカリキュラム及び授業の目標に対する達成状況について報告する。

## 2 「教職実践演習」のカリキュラム開発

### 2.1 カリキュラムの理念

目標を「教員として求められる諸事項について、個々の学生の主体的かつ体験的・実践的な学びとグループによる協働を通して、教員として必要な実践力を身に付けさせる。」とした。履修時期は4年生後期、履修単位は2単位とし、実践的な演習を効果的に行うため集中講義（2～3時間連続）で行うこととした。履修形態は学部を超えた交流による効果を期待し、学部混合にして50人規模で実施することとした。教員の指導体制は、3名の協力教授により指導することとした。

### 2.2 カリキュラムの構造

授業は3つの期間に区分される。

第1期は、特別活動や学級経営において特に重要な集団活動を通じた人間関係づくりについて体験的に学ぶことを目的とする。具体的には、構成的グループエンカウンターを体験することにより、自己開示と他者とのふれあいを通して集団全体及びグループ内の人間関係を築き、今後のグループ活動の基盤をつくとともに、学級における集団活動を通じた人間関係づくりの方法を学ぶ。そのうえで、学級経営の実際についてグループ協議を通して深める。

第2期は、学校における授業を実際に参観することを通して、学習指導、特に道徳授業の実際について学ぶことを目的とする。訪問に当たっては、事前に訪問校（小学校）の教育を調査させ、小学校における学校経営や研究活動について理解を深めることとした。また、事後に「学校訪問体験記録」を作成させることとし、参観授業について導

入の仕方、展開の工夫、まとめ方などについて記録させ、これをもとに道徳授業における指導計画、指導内容・方法、指導技術、生徒理解等について研究協議で深めることとした。

第3期は、学校教育の基本である学習指導、生徒指導、進路指導について、事例を通して実践的に学ぶことを目的とする。生徒指導については、いじめなどの問題行動が発生したときの対応などの課題について、事例からその対応の問題点を掘り下げ、解決策を検討し、生徒指導の実際について実践的に理解させることとした。進路指導については、進路問題で悩みや迷いをもつ生徒の事例をもとにキャリアカウンセリングをロールプレイングで体験させ、面接の手法について実践的に理解させることとした。学習指導については、代表者に教育実習の研究授業を再現させ、研究協議を行うこととした。

### 2.3 指導方法

授業は履修者52人を9つのグループに分けて、グループを基盤にして実施した。指導方法については、講義のほか、演習、グループ協議、事例研究、ロールプレイング、授業参観、模擬授業、電子黒板を活用した発表など、体験的・実践的な学習を多く取り入れるとともに、グループによる協働の機会を多く設けた。学生には授業運営への参画を求め、世話人に教材の準備や授業の補助等の一定の役割を担わせることにより、主体的な学習を促進した。

## 3 授業の検証

### 3.1 調査の目的

開発したカリキュラムに基づいて「教職実践演習」の授業を実践し、授業の目標の達成状況について履修学生を対象に調査し、カリキュラムの有効性を検証することとした。

### 3.2 調査内容・方法

平成25年11月に教職実践演習履修者52人を対象に質問紙法（集合調査法）により、①属性、②授業の目標の達成状況について、③全体を通じた感想（自由記述）について調査を行った。

### 3.3 調査結果

#### 3.3.1 授業の目標の達成状況（全体）

授業の目標の達成状況にかかわる10の質問項目について各回の評価及び全体を通じた評価を行なった。回答は、「非常にあてはまる」を4、「あてはまる」を3、「少しあてはまる」を2、「あま

りあてはまらない」を1の4件法した。

全体を通した評価については、概ねどの項目も約4～5割が「大いにあてはまる」と回答し、「あてはまる」と合わせた肯定的回答は9割前後である。特に評価が高いのが「生徒理解や学級経営の能力を高めるうえで役立った」「体験的な学習ができた」「教育について実践的な理解が深まった」の各項目である。逆に比較的评价が低いのが「教職に向けた進路意識が高まった」「グループで協働する学びができた」である。

### 3.3.3 授業の感想

全般的に肯定的な感想が多く、「教育についての理解が深まった」「教職についての知識や意識が深まった」「教職課程の総まとめとして演習ができた」「教育実習を振り返りさらなる勉強ができた」などの成果が述べられている。

個別の感想としては、小学校訪問について「貴重な体験だった」、「有意義だった」などの評価があり、「教職への意識が高まった」「実践的に学べた」「授業内容・方法を学べた」「教員の在り方を教えられた」などの成果が述べられている。

授業で重視したグループによる協働に関しては、「今までにない体験で楽しかった」「グループで協力しながら進める授業が新鮮だった」「これまで参加型の授業が少なかったがこの授業では他の意見を聞く体験ができた」など、グループ活動を新鮮な体験と感じ、「主体的に学べた」「実践的な体験ができた」「協調性が養えた」「コミュニケーションをとりながら共同作業ができた」などグループ活動ならではの成果が述べられている。

授業の方法としては、ロールプレイング、事例研究、演習などの手法が学びに役立っていることが述べられている。特に、ロールプレイングの効果を評価する感想が多かった。

また、授業では、実践的・体験的な学びを重視しているが、「教育現場の想像が広がりとてもよか

った」「実際に起きそうな事例を学べてとてもためになった」「教職の実際を学びイメージが具体化できた」などその効果が評価されている。

### 3.3.4 授業の目標の達成状況（教職志望別）

授業の目標の達成状況の全体を通した評価について、教職を志望する者の平均値と教職志望しない者の平均値を比較した。「教職に向けた進路意識が高まった」以外の各項目において、教職を志望しない者の方が評価が高くなっている。教職を志望しない者にとっても役立つ内容であったと考えられる（図1）。

## 4 まとめと今後の課題

### （1）授業の目標の達成状況

各項目とも肯定的回答は9割前後で、特に評価が高いのが、生徒理解や学級経営に役立った、体験的な学習ができた、実践的な理解が深まったであり、「教育についての理解が深まった」「教職についての知識や意識が深まった」「教職課程の総まとめとして演習ができた」などの感想がある。「教員として必要な実践力を身に付けさせる」という目標は達成できたと考える。

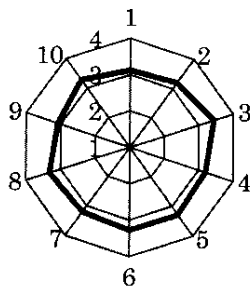
### （2）多様な授業方法の効果

具体的な授業や事例の場面を想定した指導を行ったことにより生徒理解や学級経営の能力の向上に役立ち、グループエンカウンター、ロールプレイング等を取り入れたことにより社会性や対人関係能力の向上に役立った。授業参観、事例の実演、ロールプレイング等の体験的な学習を多く取り入れたことにより主体的に取り組むことができた。

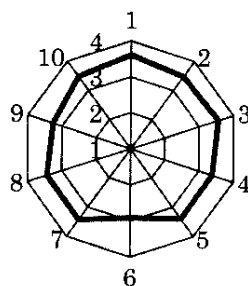
### （3）教職志望の有無の比較

「教職に向けた進路意識が高まった」以外の各項目において教職を志望しない者の方が評価が高く、教職を志望しない者にも役立つ内容であったと考えられるが、進路意識を高めるまでには至らなかった。

全体を通して（教職志望する者）n=27



全体を通して（教職志望しない者）n=24



1	使命感や責任感、教育的愛情等を高めるうえで役立った
2	社会性や対人関係能力を高めるうえで役立った
3	生徒理解や学級経営の能力を高めるうえで役立った
4	教科等の指導力を高めるうえで役立った
5	授業方法を学ぶことができた
6	教職に向けた進路意識が高まった
7	主体的に授業に取り組むことができた
8	体験的な学習ができた
9	グループで協働する学びができた
10	教育について実践的な理解が深まった

図1 授業の目標の達成状況に関する調査結果（全体を通した評価・教職志望別）